

# 日露戦後経営

1900年代初期の約12年間、桂太郎と立憲政友会の西園寺公望が交互に内閣を組織し、藩閥官僚勢力と政党勢力の提携と抗争が続いた。この時代は「桂園時代」とも呼ばれ、日英同盟成立から日露戦争、そして韓国併合に至った。日本の国際的地位の向上は目覚ましく、また、日本を取り巻く国際関係も大きく変化した。

## ○ 日露戦争が変えた国際関係

### ● 同盟と協商の変化

日露戦争後、ロシアは東アジアでの南下を諦め、矛先を再び西側へ向けた。

⇒ロシアはバルカン半島を狙い、同半島を狙うドイツと対立を深めた。



上記の動向に応じて、国際関係は次のように変化した。

- ①英一独…両国が海軍力増強を目指す「建艦競争」で対立
- ②日一米…アメリカが<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ の市場に関心を示し、  
日本が共同経営を拒否して急速に対立
- ③英一露…ドイツとの対立から、英露協商を結んで急速に接近
- ④日一露…(1)の互いの利権をアメリカから守るために、  
第1～3次<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ を結んで急速に接近

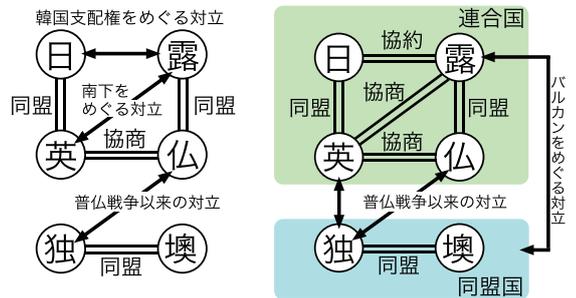


図1 日露戦争前後の国際関係

### ● 清の滅亡

漢人の孫文は、日露戦争での日本の勝利に励まされた。

⇒孫文は、「民族（満州人の王朝である清の打倒）・民権（共和国の建設）・民生（貧富の差の抑制）」の三民主義を理念に、その実現を目指した。



1911～12年、<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_  
...<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ を臨時大総統とする<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ が成立し、  
清の打倒と皇帝溥儀の退位を実現した革命



(4)は、軍閥の首領袁世凱の協力で溥儀の退位を実現したため、  
見返りに臨時大総統の地位を袁世凱に譲った。

◇軍閥…中国において、自分自身の軍隊を養い、地方を支配した軍人



図2 孫文



図3 袁世凱

## ○ 桂園時代

### ● 政界の第一線からの引退

老齢の山県有朋や伊藤博文は、政界の第一線から退いた。

⇒彼らは、非公式に天皇を補佐する<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ として首相の選任権を握った。



図4 桂太郎

### ● 山県と伊藤の後継者

1901年から10年間以上、山県有朋の後継者<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ と  
伊藤博文の後継者<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ が、首相を交互に務めた。

⇒この時期を2人の苗字から1字ずつとって桂園時代と呼ぶ。



図5 西園寺公望

<第1次桂太郎内閣 | 1901年6月～1906年1月>

1901年、山県の後継者<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ が、藩閥官僚中心の内閣を組織した。  
⇒しかし、日比谷焼打ち事件で支持を失い、総辞職した。

<第1次西園寺公望内閣 | 1906年1月～1908年7月>

伊藤博文の後継者<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ は、<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ の総裁となった。  
⇒(10) は、鉄道・港湾の拡充を掲げ、着実に支持を集めていった。

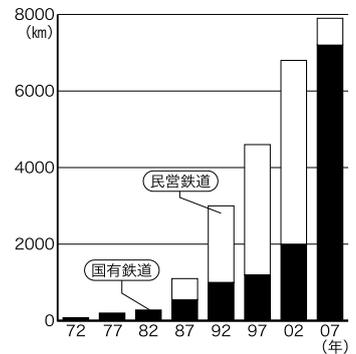


図6 鉄道網の発達

- 1906年、政党内閣である第1次(10)内閣が組織され、次のことを実施した。
- ①1906年、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ 制定  
…軍事上・経済上の目的から鉄道輸送を画一化するために鉄道を国有化した法令
  - ②1906年に片山潜<sup>せん</sup>らが結成した<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ 党の存続を容認  
…(13)党内で、革命などで社会主義実現を目指す直接行動派が、議会を通じた実現を目指す議会政策派に勝ると、遂に強制解散

- ◇社会主義…計画的な生産と富の均等配分で、貧富の格差消滅を目指す思想
- ◇無政府主義…国家の政治権力を一切否定し、個人の完全な自由を目指す思想
- ◇片山潜<sup>せん</sup>・幸徳秋水<sup>いそお</sup>・安部磯雄<sup>いそお</sup>・木下尚江<sup>なおえ</sup>らが、

1901年に結成した日本初の社会主義政党<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ 党は、  
第2次山県有朋内閣で成立した<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ 法で強制解散

↓  
社会主義の取締りに対する批判を浴び、第1次(10)内閣は総辞職した。

<第2次桂太郎内閣 | 1908年7月～1911年8月>

第2次<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ 内閣は、次のことを実施した。

- ①1908年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ 発布  
…日露戦争後に芽生えた享乐的民心の是正に、儉約・勤労を説いた天皇の文書  
…発布後、疲弊した地方自治体の財政再建・民心の向上などを目指し、  
政府(内務省)は<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ を実施  
…(18)の一環として、近世の共同体の名残(青年の組織など)を、  
新しい行政単位で再編成(青年会など)  
…(18)の一環として、軍隊の地域社会での基盤を強化するために、  
1910年、予備役・後備役・退役の軍人の団体<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ を設立

取惟アニ方今ノ文日ニ就リ月ニ將ニ東西相持  
リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ  
益國交ヲ修メ友義ヲ悖シ列國ト與ニ永ク其ノ  
慶ニ親ラムコトヲ期ス願ミルニ日進ノ大勢ニ  
伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセントスルヨリ内閣  
運ノ發展ニ須ク戦後日尚沃ク庶政益更張ヲ要  
ス宜ク上下同心ニシ志實業ニ励ムレ勤儉ヲ  
治メ廉レ俗雅レ義醇厚俗ヲ成シ善ヲ垂リ實ニ  
光ニ先志相試メ自強息マサルヘレ  
抑我ガ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我ガ光輝アル國  
史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ爰ニ克ク格  
守シ洋禍ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本道ト斯ニ  
在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我ガ忠臣ナル臣民  
ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ  
遺徳ヲ對揚セシメテ爾等ノ忠誠ヲ冀望スルニ  
朕カト旨ヲ體セヨ

図7 戊申詔書

- ②1910年、<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_  
…天皇暗殺計画の発覚を機に、全国の社会主義者・無政府主義者を検挙し、  
うち<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ ら26名を大逆罪とし、翌年、その死刑を執行  
…以後、社会主義運動は「冬の時代」と呼ばれる不振期に突入  
…事件後、思想犯・政治犯を取り締まる警察<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ を設置

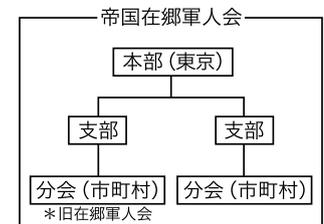


図8 帝国在郷軍人会

- ③1910年、韓国併合
- ④1911年、<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ 制定  
…工場労働者保護のため、事業主に義務を課す法律
- ⑤1911年、外相<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ が<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ を完全回復

↓  
政策実行の成果が出たとして、第2次(19)内閣は総辞職した。